

## 第 6 回策定委員会の意見等への対応

通番	意見等（要旨）	対応方針・考え方	備考
犬山市立地適正化計画 居住誘導区域（案）			
1	P4 右側にある浸水リスクの文章ですが、浸水深の情報、リスク分析をいろいろ組み合わせて、ソフト対策を主体とした防災対策を講じていくため除外しないという流れでまとめたいと思う。	文章を修正しました。	別紙 P1
2	L 1 も L 2 も除外しないということで検討されていますが、その中で家屋倒壊等氾濫想定区域は別個で検討されたほうが良いと思う。L 2 での想定区域ですが、家屋自体が流されてしまい、上階避難も許されなところになるので、ほかの浸水想定と一律ではない対策を考えることを検討したいと思う。	前段の浸水リスクに対する考え方のおり、家屋倒壊等氾濫想定区域を居住誘導区域の設定から除外する方針ではありませんが、防災指針において、個別に現状の整理や対策の検討を加えることとします。	別紙 P1
3	P13 の居住誘導区域（案）と「居住誘導区域に含む区域」というのが非常にわかりにくい。含む区域から含まない区域を除くというのは矛盾しているような表現になっている。	言葉の表現について、居住誘導区域に「含む区域」を「居住誘導区域を設定する候補となる区域」に、「含まない区域」を「居住誘導区域を設定できない区域等」に改めました。	別紙 P2, 3
4	P5 の将来人口密度を 40 人/ha 以上というのを目安にしており、その 40 人/ha 以上という設定が P14 には確認できないので、わかるように明記されたほうが良いと思う。	P14 の表に将来人口密度に対象区域全体（グロス）の人口密度を追記しました。居住誘導区域を設定する各地区において概ね約 40 人/ha、又はそれ以上の人口密度を確保できる見込みです。	別紙 P4
犬山市立地適正化計画 防災指針（案）			
5	地震による津波や高潮、豪雪とかいうものはないが、想定される災害についてコメントがあると、次につながると感じる。	想定のない災害リスクを文章に加えるとともに、想定される災害リスクに対する解説を追加しました。	別紙 P6～13
6	堤防整備が現状どこまでできているのかということも含めて、情報を出していただいたほうが良いと思う。	木曾川及び 1 級河川における堤防等の整備状況が把握できる資料を追加しました。	別紙 P9

7	<p>局所的に災害リスクが高い地区だけでもいいので、問題点が把握できた地区では、避難距離、高齢者だとかを踏まえて、どのような避難体制がいいのかとしっかり点検し、避難施設をつくるとか、学校の3階部分を避難場所とするなど、取り組みの方向性を確認する機会としてほしい。リスクが高いところで特にこういうことを検討するというものが見受けられないので、今後提示していただきたいと思う。</p>	<p>居住誘導区域での災害リスク、特に洪水及び土砂災害について、避難距離や建物分布を踏まえた分析（現況把握）を追加します。また、家屋倒壊等氾濫想定区域についても個別の災害リスク情報として整理を加えました。</p> <p>前回頂いたご意見を踏まえながら、引き続き課題の整理、点検及び取り組みの内容の検討を進めます。</p>	資料3
8	<p>L1もL2も居住誘導して浸水を許容するのであれば、浸水した後どうするかは、むしろ都市計画で検討できる領域であり、避難生活、復興を見据えた検討があると計画固有のものとして生きるのではないか。浸水している中で取り残される方がいることを前提に、どのように支援していくのか、あるいは浸水することを前提とした住まい方、住宅のつくり方も検討していただければと思う。</p>		
9	<p>いざ災害があったときに機能する場所を整備することは必要なことで、特にL2のような確率が1000分の1で滅多に起こらない、ほとんどの時間が平時であり、防災だけの場所だと都市機能としては非常にもったいない、平時にも活用できて、いざというときに役立つものを考えていただきたい。ただ、いざ災害になったときに全く役立たないことが起きたりするるので、そのような観点でも検討していただければと思う。</p>		